



奈良県感染症情報

令和3年 第1週(1月4日～1月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.0744-47-3183

今週の概要

- 新型コロナウイルスの消費について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.00	(0.68)	→	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.32	(0.12)	→	→	↓
3	咽頭結膜熱	0.26	(0.09)	→	→	↓
3	突発性発しん	0.26	(0.09)	→	→	↓
5	水痘	0.12	(0.09)	↑	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。
第1週の県内の新型コロナウイルス感染症の新規報告数は249名と増加が続いています。12月30日からは通常医療の提供に必要な病床確保のため、宿泊療養施設を108室から250室に増やして対応していますが、宿泊療養者数は1月3日には110人、1月10日には144人になっています。陽性率も高い状態が続いており、流行が収まる兆しはまだ見えません。
新型コロナウイルス対策には、こまめな換気が重要です。至温が下がりがちなよう、暖房器具を使用しながら、上手に換気に取り組みようしましょう。短時間に窓を全開にするよりも、一方向の窓を少しだけ開けて常時換気を確保する方が、室温変化を抑えられます。
11都府県で緊急事態宣言が行われました。引き続き、マスク着用、手指衛生、他人との距離の確保、3密を避けるという「うつらない・うつさない」行動の徹底をお願いします。

～新型コロナウイルスの消費について～

新型コロナウイルスへの感染は、ウイルスを含む飛沫が口、鼻や眼などの粘膜に触れること、または、ウイルスがついた手指で口、鼻や眼の粘膜に触れることで起こります。このため、飛沫を吸い込まないよう人との距離を確保し、会話時にマスクを着用し、手指のウイルスは洗い流すことが大切です。さらに、身の回りのモノを消毒することで、手指につくウイルスを減らすことが期待できます。
エタノールは濃度が70%以上、95%以下のものを、次亜塩素酸ナトリウム(次亜塩素酸水)とは異なります)は濃度が0.05%になるように希釈したものを使用しましょう。

新型コロナウイルス感染症対策
消毒や除菌効果をたう商品は、目的に合ったものを、正しく選びましょう。

① 手洗いのウイルス対策
こまめな手洗いを心がけましょう。
お肌への負担を軽減するために、アルコール消毒は必要に応じて行ってください。

② 除菌のウイルス対策
アルコール消毒は、お肌の乾燥を防ぐためにも、こまめに使用してください。

③ 定期的なウイルス対策
定期的なウイルス対策は、お肌の乾燥を防ぐためにも、こまめに使用してください。

④ 定期的なウイルス対策
定期的なウイルス対策は、お肌の乾燥を防ぐためにも、こまめに使用してください。

出典:厚生労働省HP

(https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_system_20200826_01.pdf)

詳しくはhttps://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoujokuki_00001.html
(新型コロナウイルスの消費・除菌方法について(厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ))



奈良県感染症情報

令和3年 第2週(1月11日～1月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.21	(1.00)	→	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.50	(0.32)	→	→	↓
3	突発性発しん	0.26	(0.26)	→	→	↑↑
4	RSウイルス感染症	0.15	(0.00)	→	→	→
4	咽頭結膜熱	0.15	(0.26)	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。
第2週の県内の新型コロナウイルス感染症の新規報告者は245名などっており、依然高い水準が続いています。死亡者も、5名確認されました。マスクなしでの会話や、飲酒を伴う懇親会等がクラスター発生のリスクがあるとされており、県内では劇場でのクラスターや、年末の親睦会(会食)でのクラスターが発生しています。日中も含めた不要不急の外出自粛やテレワーク等により、感染対策を行っています。
感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスク」の着用を含む「エチケツ」です。石けんで手を洗い終わったら、十分に水で洗い流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。また、マスクを着用する際は鼻と口の両方を確実に覆い、ひもを耳にかけ、隙間がないように鼻まで覆うようにしましょう。マスクの着用前や取り外し後は、手洗いをしましょう。

正しいマスクの着用

1 鼻と口の両方を確実に覆う

2 コルノを耳にかけ

3 前面が汚ないように触らない

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

受診者数は少ない。保育園児のアデノウイルス感染症、水痘が見られる。溶連菌感染症、突発性発疹を診るが流行していない。インフルエンザの患児は無い。

中部地区(岡本内科ともクリニック)

小児科の外来数は少なく特に感染症は少ない。インフルエンザが軽症で診られる。他の感染症は少ない。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

アデノウイルス感染症は減少傾向。インフルエンザの流行はみられない。普通感冒も多くはないが、COVID-19 との鑑別が必要とされる。全体的に感染症は非常に少ない。

密閉「密集」密接しない!

● 100%毎日しましょう。計画的に、密閉・密集には、注意!

1 他人と十分距離を取る

2 咳やくしゃみをするときは、マスクをしましょう!

3 密閉空間で長時間過ごすときは、マスクをしましょう!

出典:厚生労働省HP



奈良県感染症情報

令和3年 第3週(1月18日～1月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- マスクの効果について
- 12月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減	北部
1	感染性胃腸炎	2.35 (1.21)	↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.44 (0.50)	→	→
3	RSウイルス感染症	0.35 (0.15)	↑↑	↑↑
4	突発性発しん	0.26 (0.26)	→	↑
5	咽頭結膜熱	0.24 (0.15)	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況

定点把握感染症の報告状況について、感染性胃腸炎が増加しています。感染性胃腸炎は、手指や食品などを介して盛口感染するもので、流水と石鹸によるこまめな手洗いを励行し、患者の嘔吐物や糞便は適切に処理して、感染を広げないようにしましょう。また、前週から郡山保健所管内において、RSウイルスも増加しています。RSウイルスは、新型コロナウイルス同様、飛沫感染及び接触感染により感染するもので、感染予防は、咳エチケットと手指衛生が基本となります。

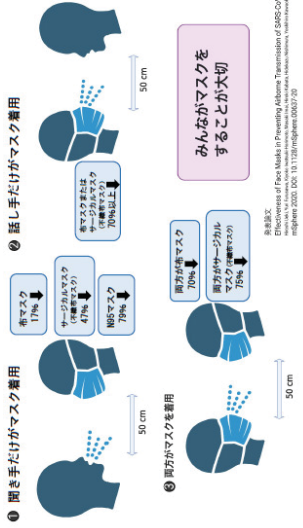
第3週の県内の新型コロナウイルス感染症の新規報告者は256名と増加が続いています。緊急事態宣言を受けて、奈良県では、感染拡大地域でのリスクが高い場所への出入りを控えるほか、家庭内でも「うつらない・うつさない」よう十分な用心を呼びかけており、改めて、感染拡大防止に向けた取り組みへのご協力をお願いします。

～マスクの効果について～

マスクの素材や、人と人の距離感等によって、マスクの効果には違いが生じます。(※)ここでは御自身の目録で説明するため、便宜上、「飛沫を出す側」「自分」(飛沫を吸い込む側)と記載します。また、マスクの素材ですが、一般的なマスクでは、不織布マスクが最も高い効果を持ちます。次に布マスク、その次にウレタンマスクの順に効果があります。もちろん、人の顔の形は千差万別ですので、同じ素材のマスクの間でも、自分の顔にぴったりとフィットしているマスクを選ぶことが重要です。また、マスクのフィルターの性能や布の厚さなどによっても差が出ます。

次に、マスクは、相手のウイルス吸入量を減少させる効果より、自分からのウイルス拡散を防ぐ効果がより高くなります。特に、室内で会話を行う場合は、マスクを正しく着用する必要があるため、マスクは不要というわけではありません。感染防止に必要な「最低1メートル」の間隔を確保できない場合もありますので、やはりマスクは重要です。自分から相手への感染拡大を防ぐために、話す時はいつでもマスクを着用しましょう。

○マスクの効果



奈良県感染症情報

令和3年 第4週(1月25日～1月31日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減	北部
1	感染性胃腸炎	1.85 (2.35)	↑	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.44 (0.44)	→	↑↑
3	突発性発しん	0.15 (0.26)	↓	→
4	RSウイルス感染症	0.12 (0.35)	→	→
5	咽頭結膜熱	0.06 (0.24)	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況

定点把握感染症の報告数は、例年より少ない状況が続いています。

第4週の県内の新型コロナウイルス感染症の新規報告者は173名となり、4週間ぶりに200名を下回りましたが、依然高い水準が続いています。1月中旬以降、学校や福祉施設等に加え、飲食店におけるクラスター事例の発生がまりました。調査の結果、マスクの着用が少なく、集まって食事をしていくことが感染拡大の要因と考えられています。

新型コロナウイルスが国内で確認されたから、1年が経ちました。また、2月2日には11都府県に発出されていた緊急事態宣言について、栃木県を除く10都府県での延長が決定しました。長い戦いとなりますが、引き続き、感染リスクの高い場所への出入りを控えるなど、感染予防にご協力をお願いします。

◆小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

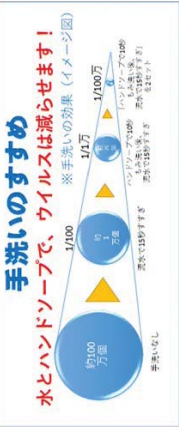
受診者数の増加はない。感染性胃腸炎が少し、発熱花柳症が出現してきた。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

受診控えが続いており外来数は少ない。インフルエンザは現在まで見られていない。短時間の発熱、感冒例などがある。感染性胃腸炎があり水様下痢例があるが軽症。その他の感染症は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ、RSウイルスの流行はみられない。アデノウイルス感染症(咽頭症状・下痢)は散見されている。呼吸器症状者に対してCOVID-19検査するも、小児の陽性者は少ない。



出典:厚生労働省HP
https://www.mhlw.go.jp/stf/sisakumitsuite/bunya/000121431_00094.html



奈良県感染症情報

令和3年 第5週(2月1日～2月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 2月4日は「風しんの日」

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.44	(1.85) ↑	↑	↑	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.50	(0.44) ↑	↑	↑	→
3	咽頭結膜熱	0.41	(0.06) ↑↑	↑	↑↑	↓
4	突発性発しん	0.24	(0.15) →	↓	↑	↑↑
5	RSウイルス感染症	0.09	(0.12) ↓	↓	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は少ない状況です。感染性胃腸炎の報告数は、第4週よりも増加しています。例年、春先の感染性胃腸炎としてロタウイルス胃腸炎が流行します。ロタウイルスは、感染力が非常に強く、感染者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれます。おむつ交換時は使い捨てのゴム手袋などを使い、手洗いは指輪や時計をはずし、石けんで30秒以上もみ洗いをお願いします。また、消毒薬は次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤)を用いましょう。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第5週における新規感染者は164名でした。新規患者数は、先週(173名)に比べて若干減少しましたが、依然として、飲食店や高齢者施設でのクラスター事案が発生しています。引き続き、お一人お一人の咳エチケットや手洗いなどの感染症対策に努めていただきますようお願いいたします。

出典: 厚生労働省HP (<https://www.mhlw.go.jp/content/000603845.pdf>)



～2月4日は「風しんの日」～

風しんは、成人がかかるが高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、妊娠初期の妊婦さんに感染させてしまうと、生まれてくる赤ちゃんの目や耳、心臓に障害が起きることがあります。昭和37年4月11日生まれの男性は、過去に公的に予防接種を受けた機会がなかったため、自分が風しんにかかり、家族や周囲の人たちに応けてしまおうおそれがあります。現在、この年代の男性を対象に、無料(お住まいの市町村から送付されたクーポン券使用)で風しん抗体検査と(必要に応じて)予防接種を受けることができます。取組が行われています。あなた自身と、これから生まれてくる世代の子どもを守るために、ぜひ風しん抗体検査と予防接種をお受けください。

詳しくは → https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkeku-kansenshou/rube11a/index_000011.html (風しんの追加的対策について(厚生労働省HP))



奈良県感染症情報

令和3年 第6週(2月8日～2月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.71	(2.44) ↓	→	→	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.50) ↓	→	→	→
3	咽頭結膜熱	0.18	(0.41) ↓	↓	→	↑
3	突発性発しん	0.18	(0.24) ↓	→	→	↓
5	水痘	0.09	(0.03) ↑	→	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数について、少ない状況ですが、内吉野保健所管内において、感染性胃腸炎が増加しており、注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第6週における新規感染者は70名であり、前週に比べ大きく減少し、陽性率も減少傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、ワクチン接種により、新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図ることが目的とされています。しかし、ワクチンを受けた方から他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かりません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。このため、引き続き、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いいたします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

感染性胃腸炎の増加も無く、届出する感染症は無い。稀に、長引く激熱の幼児がいるが、新型コロナウイルス感染症の確認はできていない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

コロナ感染者数値の減少傾向に伴って、外来数は若干増加の傾向。軽度の感冒での受診例も見られてきた。ほとんどは鼻、軽度の咳程度。感染性腸炎は少しずつ持続しているかやけり軽症。インフルエンザを含め届出感染症は殆ど見られない。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザ、RSウイルス感染症の流行はみられない。胃腸炎も散見されるが軽症で経過。アデノウイルス咽頭扁桃炎が増加、熱も遷延する傾向あり。呼吸器症状の遷延例も増加しているが、対症療法のみで軽快している。

新型コロナウイルス感染症はこうした経路で広がっています



飛沫の伝播距離は、呼吸や会話の飛沫で知られており、長い距離でも感染が起るもの。マイクロ飛沫は、飛沫よりも小さく、空気中に長時間滞留し、呼吸を介してウイルスが侵入する可能性がある。

3つの密を避けましょう! 1.集客の多い閉鎖空間、2.閉鎖した会場で長時間を過ごす閉鎖空間、3.閉鎖した会場で長時間を過ごす閉鎖空間

手洗い・手指消毒、マスクの着用、2m(最低1m)の身体的距離が大事! 温度変化も重要です!

出典: 新型コロナウイルス感染症対策(内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室) https://corona.go.jp/prevention/pdf/infection_routes.pdf



奈良県感染症情報

令和3年 第7週(2月15日～2月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 3月1日(月)～3月7日(日)は子ども予防接種週間です
- 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減(前週)	北部
1	感染性胃腸炎	2.09	(1.71) →	中部
2	突発性発しん	0.47	(0.18) ↑	南部
3	A群溶連菌咽頭炎	0.29	(0.35) →	
4	咽頭結膜熱	0.24	(0.18) →	
5	RSウイルス感染症	0.06	(0.03) →	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

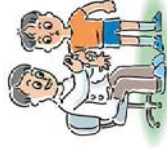
◆県内概況

定点把握感染症の報告数が少ない状況ですが、中和保健所管内西部地区で感染性胃腸炎が比較的多く報告されており、注意が必要です。
 新型コロナウイルス感染症について、県内の第7週における新規感染者は67名でした。第6週の70名からわずかに減少しましたが、ほぼ変わらない値となりました。また、入院・療養中数や陽性率も第6週と比較して横ばいの状況です。気を緩めずに、「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

国内で新型コロナウイルスの接種が始まりました。今回新たに承認されたワクチンは3週間の間隔をあけて2回の接種を受けることにより、95%の有効性で、発熱やせきなどの症状が出ること(発症)を防ぐ効果が認められています。

3月1日(月)～3月7日(日)は子ども予防接種週間です

予防接種や乳幼児健診は、お子さまの健やかな成長のために一番必要な時期に受けていただくよう、市区町村からお知らせしています。必要な予防接種を済ませているかどうか、この機会に確認し、4月からの入園・入学に備えて必要な予防接種を済ませ病気を未然に防ぎましょう。



新型コロナウイルス感染症の影響で、お子さまを医療機関に連れて行くことに抵抗がある方がいらっしゃるかもしれません。しかし、特に赤ちゃんの予防接種を遅らせて、免疫がつかぬのが遅れ、重い感染症になる危険性が高まります。お子さまの健康が気になることから、予防接種・乳幼児健診は、遅らせずに、予定どおり受けましょう。

詳しくは、かかりつけのお医者さんやお住まいの自治体に
お問い合わせください。

- 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール
http://www.peds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が2月17日から、国内で始まりました。接種を行う期間は令和3年2月17日から令和4年2月未までの予定で、最初は、医療従事者等への接種が順次行われます。その後、高齢者、基礎疾患を有する方等の順に接種を進めていく見込みです。行政機関及び職能団体へ所属していない医療従事者等の方は、下記を参考に、e・古都ならのフオーラムからご登録ください。

参考:【医療従事者等向け】新型コロナウイルスワクチン優先接種希望の登録について <http://www.pref.nara.jp/57670.htm> (県HP)



奈良県感染症情報

令和3年 第8週(2月22日～2月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	増減(前週)	北部
1	感染性胃腸炎	1.82	(2.09) →	中部
2	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.29) ↑	南部
3	咽頭結膜熱	0.35	(0.24) ↑	
4	突発性発しん	0.32	(0.47) ↑	
5	RSウイルス感染症	0.09	(0.06) →	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況

定点把握感染症の報告状況について、中和保健所管内において、A群溶連菌咽頭炎及び咽頭結膜熱が増加しています。主な感染経路は、新型コロナウイルス同様、「飛沫感染」と「接触感染」ですので、感染予防は、咳エチケット、手洗いが有効です。

新型コロナウイルス感染症について、2月28日をもって、10都府県に発出されていた緊急事態宣言が、関西3府県、中部2県及び福岡県において解除されました。奈良県においても、第8週における新規感染者は23名で減少傾向にありますが、全国的に2月中旬以降は減少スピードが鈍化しており、下げ止まる可能性があります。再拡大(リバウンド)には注意が必要です。年末には忘年会の影響で感染が拡大したという専門家の指摘もありますので、年度末に向けて、歓送迎会、謝恩会、卒業旅行、お花見に伴う宴会など大人数の会食について控えていただくようお願いいたします。また、引き続き、リスクが高い場所への出入りを控えるほか、家庭内でも「うつらない・うつさない」よう、十分な用心をしましょう。

◆小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

花粉症、気管支喘息の受診者が多くなってきました。短期間発熱する患児がいるが、多くは無い。感染性胃腸炎の増加はない。インフルエンザの患児は、今シーズンは診ないで終わらそうです。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は少ない状況が続いている。軽度の感冒、腹痛のみの感染性腸炎疑い例等で届け出疾患は見られなかった。インフルエンザが例げなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザやRSウイルス等、冬の流行ウイルスは全くみられない。アデノウイルスによる咽頭扁桃炎や胃腸炎が散見される。花粉症に伴う上気道炎患者が増加している。

新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら

新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら
 新型コロナウイルスワクチンについて詳しくはこちら

出典: 新型コロナウイルス感染症対策(内閣府)新型コロナウイルス感染症対策推進室 <http://www.kantei.go.jp/jp/content/20210219/vaccine.pdf>



奈良県感染症情報

令和3年 第9週(3月1日～3月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 新型コロナウイルスの変異について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.74	(1.82) ↑	↘	↑	↑
2	突発性発しん	0.44	(0.32) ↑	→	↑	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.41	(0.56) ↓	↗	↘	↓
4	咽頭結膜熱	0.38	(0.35) ↑	↑	→	↑
5	水痘	0.21	(0.03) ↑	↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は例年に比べ少ない状況が続いていますが、感染性胃腸炎が増加しています。春先に流行する胃腸炎の原因の1つにロタウイルスがあり、ロタウイルスによる胃腸炎は、乳幼児(0～6歳頃)に多く、水のような下痢、吐き気、嘔吐などの症状が出ます。ロタウイルスワクチンの予防接種は重症化予防に有効で、乳幼児の定期接種であり、適切な期間内に忘れないように接種することが大切です。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第9週における新規感染者は、事業所におけるクラスター1件あり、46名と前週より増加しました。また、変異株検査を全国の地方衛生研究所で実施することになり、保健研究センターでも、3月1日の陽性検体から検査を実施しています。引き続き、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒、外出時のマスク着用などの基本的な感染対策を行うとともに、会食などの外出を控え、3密(密閉・密集・密接)を避けるといった「うつらない・うつさない」行動の徹底をお願いします。

◆新型コロナウイルスの変異について◆

ウイルスは流行していく中で少しずつ変異を起こしています。この変異したウイルスが変異株です。変異が起こると性質の変化が起こり、感染しやすくなる場合があります。新型コロナウイルスについても、約2週間で1カ所程度の速度で変異していると考えられています。

現在、従来よりも感染しやすい、重症化しやすい**可能性のある変異株**や、**ワクチンが効きにくい可能性のある変異株**が世界各地で報告されています。日本では、変異株のクラスターが複数報告され、海外とのつながりがない事例も継続して確認されていますが、地域で広く流行している状況ではありません。

個人の基本的な感染予防策は、変異株であっても、**3密(特にリスクの高い5つの場面の回避、マスクの着用、手洗い)**などが、これまでと同様に有効です。

参考: (2021年2月時点) 新型コロナウイルス感染症のいまに関する11の知識
(厚生労働省 HP) <https://www.umhlw.go.jp/content/000749530.pdf>



奈良県感染症情報

令和3年 第10週(3月8日～3月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.85	(2.74) ↑	↑	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.41) ↑	↑	↘	↑
3	突発性発しん	0.53	(0.44) ↑	↑	↗	↑
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.38) ↓	↗	↘	↑
5	流行性耳下腺炎	0.06	(0.03) ↑	→	↗	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告状況について、北部において、感染性胃腸炎が増加傾向です。感染性胃腸炎は、多種多様の原因があり、細菌、ウイルス、寄生虫が主な病原体です。集団生活の場での、感染拡大が懸念されており、集団感染を引き起こさないよう、糞便や嘔吐物の処理・消毒方法を確認しておきましょう。また、食事前や排便後にはしっかりと手洗いをしましょう。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第10週における新規感染者は49名と前週より若干増加しました。再びの感染拡大を防ぐために、歓送迎会、謝恩会、卒業旅行、お花見に伴う宴会など大人数の会食について控えていただくようお願いいたします。また、引き続き、マスク着用、3密回避、室内換気、手洗いやアルコール消毒を徹底していただきますようお願いいたします。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

鼻風邪と花粉症が見られる。外来患者数は少なく、届け出る感染症は無い。最近では高学年の生徒に不定愁訴が目立つ。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

来客数は少ない状況が続いている。鼻かぜ程度の感冒が多い。感染性腸炎は嘔吐が主のノロウイルス例が多い。インフルエンザは今冬はみられなかった。A群溶血性連鎖球菌先行感染後と思われる(受診なし・不祥) S-H 茶斑病(敗血症)が一例あった。その他の届け出疾患はみられなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザ、RSウイルス等冬の流行性疾患はない。花粉症の症状者が多く、一般感冒との合併で遷延している。下痢・嘔吐・発熱のウイルス性胃腸炎は散見される。ロタ・ノロ・アデノウイルス迅速検査陰性。



出典: 新型コロナウイルス感染症対策(内閣府) 新型コロナウイルス感染症対策推進室 <https://corona.go.jp/proposal/>



奈良県感染症情報

令和3年 第11週(3月15日～3月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ～新型コロナウイルス変異株について(令和3年3月21日時点)～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.97	(2.85)	↗	→	→
2	突発性発しん	0.56	(0.53)	↗	↗	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.50	(0.56)	→	→	↗
4	咽頭結膜熱	0.41	(0.29)	↗	↓	↗
5	ヘルパンギーナ	0.06		↗	↗	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **↗やや増加** **→横ばい** **↘やや減少** **↓減少**

◆県内概況◆

咽頭結膜熱の報告数が増加しており、特に中和保健所管内東部地域からの報告が多くなっています。主な症状は発熱や咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血で、目の症状は片方から始まり、その後もう片方の目にも現れます。主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。流水と石けんによる手洗いを心がけ、タオルなどの共用は避けるようにしてください。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第11週の新規感染者は58名と増加傾向にあり、変異株が複数確認されています。変異株であっても、個人の基本的な感染予防策は、3密の回避、マスクの着用、手洗いなどがこれまでと同様に有効です。感染の再拡大を防ぐため、引き続き、感染予防対策を継続して頂くようお願いいたします。

～新型コロナウイルス変異株について(令和3年3月21日時点)～

変異株について、当県では、奈良県保健研究センターで実施したPCR検査結果が陽性となった検体のうち、遺伝子解析のしやすい、ウイルスの遺伝子が多い検体を国立感染症研究所へ提出し、遺伝子解析を実施することで変異の有無を調べていますが、令和3年3月1日以降、奈良県保健研究センターで変異株PCR検査を20例実施し、N501Y変異のある変異株を7例検出しました。

検査によりN501Y変異があることが分かった後、国立感染症研究所へ検体を提出、遺伝子解析を行い、どの系統の変異株であるかを調べています。

N501Y変異のある株について

- 英国、南アフリカ、ブラジルで確認された変異株に共通したもので、従来株より感染性の増加が懸念されています。
- 迅速な対応のため、各自治体で全陽性患者数の5～10%の検体を対象に変異株PCR検査を実施することになっています。当県では、奈良県保健研究センターでPCR検査陽性と判明した検体のうち、遺伝子解析のしやすい、ウイルスの遺伝子が多い検体を選んで検査を実施しています。
- これらの変異株に感染していることが確定したもののや、その濃厚接触者に対する入院措置や退院基準は、当面の間、入院の際には原則個室対応、退院の際は症状軽快後2回の陰性確認が必要となっています。



奈良県感染症情報

令和3年 第12週(3月22日～3月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.50	(1.97)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	0.50	(0.50)	→	→	↗
3	突発性発しん	0.44	(0.56)	→	↗	↗
4	咽頭結膜熱	0.35	(0.41)	→	→	↗
5	水痘	0.09	(0.00)	↗	→	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増** **↑増加** **↗やや増加** **→横ばい** **↘やや減少** **↓減少**

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告状況について、前週に比べ大きな増減があった疾患はありませんが、南部の一部医療機関で報告が集積しています。また、数週にわたり散見されているカルベペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症について、薬剤耐性遺伝子検査を実施したところ、1株からOXA-48型が検出されました。

新型コロナウイルス感染症について、県内の第12週において、新規感染者は149名と前週より大幅に増加しています。全都道府県で緊急事態宣言が解除されましたが、大阪を含め各地域で感染者数が増加しており、リバウンドの傾向にありまします。引き続き、県民の皆様には、以下のことについて、感染拡大防止にむけた取組へのご協力をお願いいたします。

- エチケットを守り、用心して静かに飲食を楽しみましょう。
- リスクが高い場所への出入りを控えましょう。
- 家庭内でも「うつらない・うつさない」よう十分に用心しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

花粉症の受診が多いが、発熱患児も前週より増えてきている。咽頭結膜熱が見られたが、他に届出疾患はない。
 クルミによるアナフィラキシー症状を呈した学童がいた。

中部地区(阪内小児科)子どもクリニック)

外来数は少ない。軽度の感冒、予防接種、アレルギーなどが殆ど。マスクの効果か、インフルエンザを含め届け出疾患は皆無に近い状況。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎が増加。アデノウイルス性咽頭扁桃炎も増加、入院例もあり。
 インフルエンザ、RSウイルス感染症の流行はないが、遷延する呼吸器感染症が散見される。



出典:新型コロナウイルス感染症対策(内閣府)新型コロナウイルス感染症対策推進室) https://corona.go.jp/proposal/pdf/taising_nshoku_20210324.pdf



奈良県感染症情報

令和3年 第13週(3月29日～4月4日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ～「カルババネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について～
- ◆**定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)**◆

順位	疾患名	奈良県		南部
		定点当たり	増減(前週)	
1	感染性胃腸炎	2.59	→ (2.50)	↑↑
2	咽頭結膜熱	0.68	↑ (0.35)	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.47	→ (0.50)	↑
4	突発性発しん	0.38	→ (0.44)	↓
5	RSウイルス感染症	0.18	↑↑ (0.00)	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症について、中和保健所管内において、発熱・咽頭炎・結膜炎の3主症状とする咽頭結膜熱の報告が増加しています。タオトルは個別にし、石けんと流水で十分に手を洗しましょう。
 新型コロナウイルス感染症について、全国的に3月以降、再び感染が増加しており、1日、大阪府、兵庫県及び宮城県への「まん延防止等重点措置」の適用が決定されました。本県でも、3月下旬以降感染者が高い水準で推移しており、第13週の新規感染者は292名で、前週より2倍に増加しています。今回の「まん延防止等重点措置」の適用は、本県に隣接する大阪府等における感染拡大によるものとお願いいたします。
 ・まん延防止等重点措置が適用されている地域への不要不急の往来を控えましょう
 ・通勤や通学等で大阪(特に大阪市)へ往来する際、感染リスクが高い場所への出入りを控えましょう
 ・家庭内でも「うつらない・うつさない」よう十分に用心しましょう

～「カルババネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について～

2020年50週に届出があった「カルババネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について、病原体サーベイランスに基づき遺伝子解析を実施した結果、**奈良県内で初めて、OXA-48型のカルババネムセブタン菌(OPF)であることが判明しました。**ちなみに、2018年の全国におけるCRE病原体サーベイランス報告(1684株)において、OXA-48型は3株でした。
 耐性菌の増加・拡大および抗生物質の開発鈍化の現状において、感染症治療の最終兵器とも呼ばれるカルババネム系抗生物質が耐性を示すCREは「悪夢の耐性菌」と呼ばれ、国際的にも恐れられている重要な薬剤耐性菌であり、監視が実施されています。中でも、薬剤を分解するカルババネムセブタン菌を産生するCREは、耐性遺伝子をプラスミド上に保持し、接合により、同一菌種や他菌種へ次々と耐性情報を伝達し、耐性菌の拡散が早い特徴を有します。カルババネムセブタン菌は地域性があり、本邦ではIMP型が多く検出されます。**海外型に分類されるKPC型、NDM型、OXA-48型の検出は少ない、検出された患者さんは、海外渡航歴の有る場合がほとんどです。**
 OXA-48型は、2001年にルゴで初めて確認され、2009年以降、欧州各国で広がっており、感染症になった場合の高い死亡率を懸念してCDCが2013年に警告声明を発表しています。本邦では2012年に医療ツーリズムを原因とする事例で初めて確認されました。**近年、海外渡航歴の無い患者さんからも検出報告が出始め、国内での拡散が懸念されています。奈良県の事例においても海外渡航歴無しと報告されており、今後、県内での広がりを監視する必要があります。**

薬剤耐性菌による感染症とは <http://www.pref.nara.jp/58219.htm>



奈良県感染症情報

令和3年 第14週(4月5日～4月11日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 変異株PCR検査の実施状況
- 令和3年度3月報告(再)位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況
- ◆**定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)**◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	3.35	↑ (2.59)	↑	↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	0.68	↑↑ (0.18)	↓	↑↑	→
3	咽頭結膜熱	0.38	→ (0.68)	↓	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.38	→ (0.47)	↑	↓	→
5	突発性発しん	0.29	↓ (0.38)	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

RSウイルスの感染症の報告数が増加しています。RSウイルス感染症の感染経路は主に飛沫感染と接触感染ですので、新型コロナウイルス感染症と同様、こまめな手洗いや咳エチケットを心がけましょう。
 第14週の新規新型コロナウイルス感染症の新規報告者数は575名と、前週の292名の約2倍になっています。近畿圏内で流行している変異株は英国株です。感染力が強いため、今まで以上に用心しましょう。

◆小児科外来情報◆

■北部地区(田中小児科医院)

溶連菌感染症、咽頭結膜熱、そして確定に至っていない突発性発疹が増えている傾向にある。ただし外来数の増加はない。RSウイルス感染症は診ていない。

■中部地区(脚本内科)こどもクリニック

感染性腸炎が流行中。嘔吐、下痢、ノロ様。発熱のある例もある。子供二人に続いて両親が順に感染した例もあった。軽度の感冒例も発熱例も増加してきた。咳喘の強い例は少ない。

■南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎が急増。頻回嘔吐、発熱、水様下痢で一部症例にノロウイルス陽性家族もあり。アデノウイルス性咽頭炎もやや増加している。またRSウイルス感染の乳幼児も散見された。COVID-19陽性の学童からは学校でのクラスターにはなっていない。

◆変異株PCR検査の実施状況◆

検査実施週	変異株検査数		陽性数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判別数のみ)	
	(P)カギ型	(N)カギ型	(P)カギ型	(N)カギ型	英国	解析不能
3月5日～3月7日	1	0	0	-	-	-
3月8日～3月14日	5	0	0	-	-	-
3月15日～3月21日	14	6	7	1	6	1
3月22日～3月28日	22	7	15	18	3	10
3月29日～4月4日	118	86	32	58	26	31
4月5日～4月11日	163	129	34	125*	97	20
合計	323	235	88	208	127	81

スクリーニング: 検査可能なCT値35以下の検体を対象に(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)

疑い検査: 変異株陽性患者の接触者を対象に(其他)

解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なすぎ、解析不能であった数

*陽性数は、125件ですが1人重複しているため新たに確認された陽性者数は124例です



奈良県感染症情報

令和3年 第15週(4月12日～4月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 変異株陽性者数、性別・年齢階級別内訳
- 変異株 PCR検査の実施状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	3.26	(3.35) ↑	→	↑	→
2	RSウイルス感染症	0.79	(0.68) ↑↑	→	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.53	(0.38) →	→	→	→
4	突発性発しん	0.44	(0.29) →	→	→	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.09	(0.38) ↓	→	↓	↓

発生状況: **△**流行 **○** やや流行 **○** 少流行 **○** 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

RSウイルス感染症の報告数が増加しています。RSウイルスは、ほぼすべての子どもが2歳までに一度は感染するとされており、乳幼児早期(生後数週間～生後数ヶ月)や高齢者に感染すると重症化しやすいため、感染を避けるための注意が必要です。

第15週の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は552名と、前週に引き続き非常に高い水準で推移しており、感染の流行状況が深刻になっています。国内では、変異株の新規感染者数が増加傾向にあり、従来株から変異株へ置き換わりがおきつつある状況で、本県でも変異株が多く検出されています。変異株であってもこれまでと同様、3密の回避、マスク着用、手洗いなどが有効です。また、まだ同居していない人との、マスクなしでの対面は、徹底して避けましょう。

◆変異株陽性者数 性別・年齢階級別内訳◆

陽性者数	性別		年齢階級			
	男	女	～20歳	～40歳	～60歳	～80歳
4/12～4/18	73	76	28	38	51	25
						81歳～
						7

◆変異株 PCR 検査の実施状況◆

検査実施週	変異株PCR検査数		変異株陽性者数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判明数のみ)			
	(件) スクリーニング検査	(件) 疑い検査	(件) スクリーニング検査	(件) 疑い検査	英国	変異株	解析不能	解析不能
3月29日～4月4日	118	86	32	58	26	32	31	1
4月5日～4月11日	163	129	34	125*	97	28	50	3
4月12日～4月18日	176	169	7	150*	145	5	7	0
合計(3/5～4/18)	499	404	95	388	272	86	104	7

*検査中重複実施があるため、上記陽性者数と一致しません。

スクリーニング検査: 検査可能なCT値35以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)

疑い検査: 変異株陽性患者の接触者を対象に検査を実施

解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった



奈良県感染症情報

令和3年 第16週(4月19日～4月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 変異株 PCR検査の実施状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.15	(3.26) ↑	→	↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	2.15	(0.79) ↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.53	(0.53) →	→	↑	↑
4	突発性発しん	0.47	(0.44) →	→	↑	↑
5	咽頭結膜熱	0.26	(0.09) ↓	↓	↓	↓

発生状況: **△**流行 **○** やや流行 **○** 少流行 **○** 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

RSウイルスの感染症の報告数が先週に引き続き増加しており、特に中和保健所管内で多く報告されています。感染予防のためこまめな手洗いを心がけましょう。

奈良県でも新型コロナウイルスの変異株が流行しています。変異株は従来株に比べて感染性が高いとされ、おのり感染者が急増してきています。第16週の新型コロナウイルス新規感染者数は689名と前週の552名から増え、非常に高い水準で推移しています。スクリーニング検査の結果、約8割が変異株陽性です。感染者急増の状況を踏まえ、27日に策定された新型コロナウイルス感染症奈良県緊急対処措置に従った感染拡大防止に向けた行動を強くお願いたします。

◆小児科外来情報◆

北都地区(田中小児科医院)

頻回の嘔吐、下痢症状の軽い感染性胃腸炎の症例や、3日程度の発熱があるが全身状態のほぼ良好な症例が増えている。
 アデノウイルス迅速検査を実施した例はすべて陰性であった。
 ただし、届出疾患はほぼ無い。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ノロウイルス胃腸炎が流行している。2～3歳の幼児が中心で、同胞家族へと拡大。輸液・食事療法で軽快。呼吸器症状を有する小児でRSウイルス陽性例が散見。冬季流行時ほどの重篤感はない。
 新型コロナウイルスは成人がほとんどで、学校クラスターは今のところ発生していない。

◆変異株陽性者数・PCR検査の実施状況◆

検査実施週	変異株PCR検査数		変異株陽性者数		国立感染症研究所におけるゲノム解析結果(判明数のみ)			
	(件) スクリーニング検査	(件) 疑い検査	(件) スクリーニング検査	(件) 疑い検査	英国	変異株	解析不能	解析不能
3月5日～4月4日	160	106	54	83	30	53	47	0
4月5日～4月11日	163	129	34	124	96	28	52	0
4月12日～4月18日	176	169	7	149	144	5	48	0
4月19日～4月25日	212	212	0	173	173	0	0	0
合計	711	616	95	529	443	86	147	0

スクリーニング検査: 検査可能なCT値35以下の検体を対象に検査を実施(変異株陽性患者の濃厚接触者等を除く)

疑い検査: 変異株陽性患者の接触者を対象に検査を実施

解析不能: 変異株陽性と判定し、国立感染症研究所へゲノム解析を依頼したもののうち、ウイルス遺伝子のコピー数が少なく、解析不能であった

次回週報(第17週)は、令和3年5月10日(月)に発行いたします。